



真ク・リトル・リトル
神話大系3
那智史郎・編（バベル
翻訳会訳）国書刊行会
（12/20刊・¥2900）

全五巻の形で再スタートした神話大系の、通巻で三冊目。ラヴクラフトをはじめ、スミス、ハワード、カットナー、プロックと、この類の大物作家を揃えたアンソロジーである。しかし、思ってみるに、ク・リトル・リトル（リクトール）神話を、本気で書こうとした作家は、結局ラヴクラフトだけだったんじゃないだろうか。多くの模作者たちにとって、アイデアの宝庫には違いなかったにしても、ラヴクラフト当人にあった気魄が、他の作家にはあまり感じられないからだ。神話大系に属する作品は、プロ作家からアマチュアまでそれこそ玉石混淆、まだ数百篇山のようにあるという。本をつくるに事欠かないが——小説としてはちょっとねえ……。

本書は、短篇十作、未完の草稿、末尾に神話大系リスト等を取めている。小説の中では、ダーレス&ラヴクラフトの「魔界へのかけ橋」と、ラヴクラフトの個人的添削を受けた、ビショップ「メデューサの呪い」がやはり読ませる。ただ「メデューサ」は、導入ー展開ー結末と既存の怪奇小説常套のパターンが過ぎて、いくぶん新鮮味に欠けるようだ。神話大系に連なるスケールがほしかった。（俊）